

(別紙)

第三者評価結果

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	Ⅰ-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「理念」のもとに3つの「基本方針」が明文化されています。それらは保育室に掲示され、日頃、職員、保護者が確認できるようになっています。また、理念・基本方針は「トータスキッズ 入所ご案内」にも明記され、保護者は入園時にその説明を受けています。今回実施の「利用者調査（アンケート）」に、全員が「はい」と回答していることからそのことを確認することができます。</p> <p>理念・基本方針に加え、社会で仕事をする意義、基本姿勢を記した文書も保育室に掲示されています。経営理念・基本姿勢は稲盛和夫著の「京セラフィロソフィ」に基づくもので、定期的に「京セラフィロソフィ」の勉強会を行うことで、法人の経営理念、保育理念の理解・周知を図っています。</p>		

Ⅰ-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
Ⅰ-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	Ⅰ-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園では0・1・2歳児保育の専門誌（プリプリ）を定期購読しています。また、本園では毎月採算表を作成し、コスト分析を行い、経営状況を把握しています。分析の過程で経営環境の変化を把握し、対応しています。また、上三川町から定期的に配付される広報誌を読むことで、地域の保育ニーズの把握に努めています。</p>		
3	Ⅰ-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園では毎月採算表が作成され、所長は毎月1回、各施設の長が集まる本部の全体会議で報告をしています。全体会議では、採算表をもとにその月に経営状況の分析し、経営課題が明らかしています。</p> <p>採算表は収入、支出が細目にわたって集計され、予定と実績を対比することで、収支分析が精緻に行われています。そしてその結果より次月の重点施策、サービス内容、収支計画が作成され、所長は会議結果を園に持ち帰り職員に周知し、業務が実践されています。</p>		

計画、実施、結果分析、そして改善策の検討と、PDCAサイクルが機能していることを確認することができました。

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>法人ではインターネットの有効活用、人材確保のために海外からの「技能実習生」の獲得など、新しい社会の動きや福祉を取り巻く環境に対応して、新しい手法を取り入れた活動を展開しています。このように時代を先取りした事業展開を積極的に行っていますが、まだ、明文化した中長期計画の策定を行っておりません。将来、本園が目指すべき「姿」、「ビジョン」、「方向性」を明らかにし、長期にわたり、確かな歩みを進めるするために、中長期計画の策定が求められています。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>中長期計画は策定されていませんが、単年度の事業計画は収支計画に裏付けされ、計画作成が行われています。前年度の事業結果を反省し、次年度の方針（抱負）、重点施策が打ち立てられ、年間の保育サービス計画、行事予定が組まれています。また、年間の収支計画（MP）は、前年度の収支結果を踏まえ、月毎に緻密な収支計画が作成されており、経営の基礎計画になっています。保育サービスの内容以外に、事業計画には「安全・安心の管理」、「職員の資質向上」、「地域社会との連携」等についての年間事業方針が求められます。しかし、そのような内容の計画が見当たらないことから、今後の計画作成が求められます。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>毎月職員同士で意見を出し合い、その月のサービスの実施状況を評価・反省し、次月の重点項目を設定、サービスの実施計画が立てられています。また、サービスの実施計画のもとに、精緻な毎月の収支計画（採算表）が立てられています。年度の事業計画は毎月のサービス実施計画、収支計画を総括し、次年度の重点施策が掲げられ、それをもとに年間の保育サービス、行事予定、収支計画が策定されています。毎月、年度の事業計画は、3名の正規職員全員で検討、立案されており、各職員は十分理解しています。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>年間の行事予定表は年度初め、また、途中入園の利用者には入園時に配付しています。また、各月の行事予定について毎月の「キッズだより」や「おたより」で通知しています。各月の「キッズだより」は、挿し絵や写真をふんだんに使い、微笑ましい内容になっており、</p>		

保護者が理解しやすいようにと、工夫されていることが伝わります。

主な行事の実施にあたっては、直接保護者から意見を聞きながら実施しており、今回実施した利用者アンケートでも「意見を言いやすいように、言葉かけを行うなどの取組」についての問いに全員が「はい」と回答しており、この結果からも裏付けされます。

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>毎月、職員全員でサービス内容の実施状況を評価、反省し、次月のサービスの質向上に向けた取組が計画されています。また、園独自の「トータスキッズ自己評価表」が作成され、職員全員が年1回、実施しています。しかし、今回実施した職員アンケート結果では、「組織の課題やサービス内容についての組織的な検討」についての問いに、全員が「できていないところがある」と回答しており、今後、職員で「できていないところ」について話し合い、改善に取り組むことが望まれます。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>毎月のサービス内容の実施状況の評価・反省をもとに、次月のサービスの質向上に向けて取り組みが計画され、実施されています。毎月の職員打合せにおいても、園児たちの成長の様子、園の運營業務、行事予定、勤務体制が報告・協議され、次月の計画が立てられています。また、年に1回実施される自己評価結果をもとに、職員全員で今後の保育サービスの質向上に向けた改善策を検討し、年間の事業計画に反映しています。</p>		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園は、正規職員3名、非正規職員1名の計4名という、小規模の職員体制の園であり、小規模ゆえに所長はあえて、改めて施設長としての役割、責任を表明することなしに、園の運営、指揮にあたっています。しかし、園運営の施設長、職員の役割、責任の所在を明らかにする意味においても文書で明らかにし、職員への周知が望まれます。今回実施した職員アンケート結果において、「施設長の役割・責任を伝えていますか。」との問いに、「できていないところがある」との回答が3/4を占めたことも、その表れと捉えられます。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>所長は、上三川町が年数回実施する「町内保育施設長会議」に出席し、保育を取り巻く社会情勢の変化、法制度の動き等について情報を収集し、園に持ち帰り職員に報告し、遵守すべき法令等の理解の促進を図っています。しかし、園内に法令集を整備したり、関連する外部研修会に参加したり、また、園内で定期的に勉強会を行うなどといった活動について確認することができなかったことから、今後の取組が期待されます。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>園では毎月、施設長が中心となり職員全員でサービスの実施状況の評価・反省を行うとともに、採算表の作成を行っています。毎月の評価・反省、採算表の作成により、次月のサービスの実施計画が作成されており、所長はその取組に指導力を発揮しています。また、月に1回「キッズ職員会議」を行っています。その議事録から、所長は園を管理し、的確に指示を出していることが確認でき、施設長としての指導力が発揮していることがうかがえます。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>毎月作成される採算表、各年度作成される収支計画（MP）は施設長が中心となり、職員全員で作成しています。採算表、収支計画（MP）作成過程で、園経営の改善が分析され、次月、次年度の計画に反映しており、業務の実行性を高める取組として高く評価されます。しかし今回実施した職員アンケート結果では、所長の指導力について「できていないところがある」と全員が回答しており、今後、更なる取組が望まれます。</p>		

II-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>法人全体の経営管理部が人材確保を担当しており、法人のホームページは、インターネットサイトを活用し求人を行っています。また、海外の「技能実習生」確保に2年前から取り組んでおり、来年度は1名の「技能実習生」の採用が決定しています。また、昨年度より1日10時間勤務・週休3日制の勤務体制を導入するなど、職員定着を図っています。</p> <p>法人は先進的な求人活動、定着対策を展開していますが、将来の中長期計画に基づく人材確保計画は残念ながら見当たらず、中長期計画の策定とともに、人材確保に関する計画の作成が望まれます。</p>		
15	II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>法人の経営理念・基本姿勢に基づき、法人の求める人材、職員像を明確にし、法人独自の人材育成制度「トータスアカデミー制度」を6年前に創設して、人材育成を図っています。しかし、各職員の個人目標管理シート、勤務状況・能力評価シートといった総合的な人事管理・評価制度が整備されていないのが現状です。</p> <p>今回実施した職員調査結果でも、「人事考課の結果について職員のフィードバックがされていますか。」との問いに、できているとの回答は1/4になっていることから、今後の整備が望まれます。</p>		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>毎月の出勤簿により、職員の労働状況、有給休暇の取得状況等をチェックし、就業状況を管理しています。休暇の取得については、希望に沿って取得できるよう職員間で調整し、それをもとに毎月のシフト表を作成し、各職員に配付しています。</p> <p>毎月法人全体で行う安全衛生委員会に所長が出席し、職員の健康状態を報告するとともに、年1回、職員はストレスチェックを行い、嘱託の産業医からのアドバイスをもらうなど、職員の健康管理を行っています。</p>		
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>法人の経営理念・基本姿勢のもととなる「京セラフィロソフィ」を学ぶ「フィロソフィ勉強会」を法人全体で開催しており、園の職員は輪番で参加し、仕事を通して人としての資質を高めています。また、今年度は栃木県社会福祉協議会が主催する「保育士等キャリアアップ研修会」に参加し、保育士としての資質を磨く活動を行っています。</p>		

<p>本園の職員は4名と限られており、職員が話し合い勤務の調整を図りながら、法人の勉強会、また外部研修に参加し、保育士としての資質向上に努めています。</p>		
18	<p>Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。</p>	<p>a・b・c</p>
<p><コメント></p> <p>法人では求める人材、職員像を掲げ、その育成制度として「トータスアカデミー制度」を創設し、人材育成を図っています。しかし、職員個々が自己開発の目標を掲げ、そのための研修計画を策定し、教育・研修を行うまでに至っていないのが現状です。少人数の職員体制の中で、研修活動を展開するのは難しい面がありますが、各職員の自己実現、ひいては園の資質向上のために、個々の職員の目標に対応した研修計画を策定し、着実に実行されることが望まれます。</p>		
19	<p>Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。</p>	<p>a・b・c</p>
<p><コメント></p> <p>法人全体の職員の資質向上のための「トータスアカデミー制度」や「フィロソフィ勉強会」「知識向上勉強会」などの研修制度、勉強会が整備され、各職員は勤務調整を図りながら参加しています。また外部研修として、保育士としての資質向上のため「保育士等キャリアアップ研修」に参加するなど、限られた時間のなかで、研修、勉強会への参加機会を作っています。園の中での勤務を通しての内部研修の活動が期待されますが、その活動の記録が確認できないことから、今後の活動が望まれます。</p>		
<p>Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。</p>		
20	<p>Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。</p>	<p>a・b・c</p>
<p><コメント></p> <p>本園は実習生を受け入れる方針ですが、現段階では実績がないのが現状です。また、受け入れの基本姿勢、マニュアル、実習プログラム等も未整備の状況にあります。</p> <p>今後については、まず基本姿勢を明文化し、マニュアル、実習プログラム等を検討、作成するなど、受け入れの体制を整備することが求められます。そしてそれをもとに、受け入れを積極的に働きかけていくことが望まれます。</p>		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		<p>第三者評価結果</p>
<p>Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。</p>		
21	<p>Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</p>	<p>a・b・c</p>
<p><コメント></p> <p>法人全体のホームページが整備され、その中に本園を紹介する「入所のご案内」のページや園の毎日の活動記録がアップされたブログがあります。また、上三川町のホームページにおいても本園の所在地や定員、空き状況が表記されています。法人のホームページは、挿し絵や写真をふんだんに使い、大変楽しい、解放的な内容になっており、法人や園の情報発信、</p>		

関係者の情報交流のページとして、大変有効に機能しています。しかし近年、個人情報の漏洩、ネット情報が絡んだ事件・事故が頻発する中で、確かな情報に関するリスク管理が求められます。		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>法人の各施設サービスは、それぞれ毎月の採算表を作成し、本部の全体会議に報告し、全体会議で経営状況を分析し、次月の採算計画が検討されています。園の採算表は、正規職員3名全員で作成しており、園の経営状況は採算表を作成することで、園の経営の公正性、透明性が確保されています。</p> <p>また、園は定期的に上三川町の実地監査を受審しており、公に園の経営の公正性、透明性が確保されています。</p>		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>園の日常の野外活動として、散歩や公園遊びを行っています。散歩コースは複数あり、コースの道筋では近所の方たちとの交流があります。園児たちは近所の人たちと日常の触れ合いを通し、人気者になっており、「トータスキッズ」は創立3年目ですが、地域の保育園として認知されるようになっていきます。</p> <p>また、法人は様々なサービス事業を展開しており、特別養護老人ホーム、デイサービス、グループホーム、ショートステイ事業といった高齢者のためのサービス施設が園の近所にあります。本園はこれらの高齢者施設と日常的に交流を行っており、園児たちはおじいさん、おばあさんの人気者になっています。園は地域の高齢者の生きがいづくりに大きく貢献しています。</p>		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園では現在のところ、ボランティア受け入れに関する「基本姿勢」「制度」「マニュアル」など、受け入れ体制の整備は行っておらず、また、これまで受け入れの実績はないのが現状です。</p> <p>本園は定員5名の小規模保育所であり、小規模のために受け入れの制限、限界がありますが、園児たちへの保育の広がり、地域との連携・結び付きを太くするためにも、地域のボランティアの受け入れについて、検討することが望まれます。</p>		
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・b・c

<コメント>

防災・防犯、その他事故・事件の際の緊急連絡先のリストが整理され、保育室に掲示されています。しかし、園が連携をとることが望まれる医療・福祉関係、学校、地域自治組織、活動団体等を整理したリストなどは整備されていないのが現状です。園は0・1・2歳児の保育を行っており、園を卒業すると地域の幼稚園、保育園に入園する園児がほとんどであり、それらの園との連携は必須です。地域の社会資源との連携をはかるために、社会資源情報を整理し、職員、利用者が情報を共有することが求められます。

Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

26	Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a・b・c
----	---------------------------------------	-------

<コメント>

所長は、上三川町が定期的開催する「町内保育施設長会議」に出席しています。その会議の中で、保育を取り巻く社会的動向、上三川町の保育サービスの現状、ニーズについて聞く機会があり、地域の保育ニーズの情報を得ています。その他、近所の住民との日常的な交流の中で地域の情報を得る機会がありますが、園から積極的に地域に働きかけて、保育ニーズの把握に努める活動は行っていないのが現状であり、今後の活動が期待されます。

27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・b・c
----	-------------------------------------------	-------

<コメント>

上三川町からの地域の保育ニーズ情報、また、地域から直接得た情報等から、保育の専門性を生かし、これまで園独自の公益的事業を立ち上げた経緯はありません。園は開設してまだ3年足らずであり、今後、地域との交流を深め、地域の保育ニーズに対応した公益事業を起こし、保育の専門性を地域に還元することで、地域に根差した園として成長することが期待されます。

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育理念には「子どもたちの幸せのため」、「子どもたちの人間らしい発達を助け」など、子どもを尊重する姿勢が明記されています。保育室にも掲示されており、日々、これを確認しながら、子ども一人ひとりに配慮した保育が行われています。</p> <p>また、法人全体では、ある経営哲学書をもとに、月毎にテーマを定めた勉強会が複数日開催されています。日程を調整して全職員が参加しており、福祉に携わる職員として研鑽に努める様子がうかがえます。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>法人全体で共有する「業務マニュアル」の中に“主役は利用者”などが“マナー”として記載されています。また、トータスキッズとして定めた「虐待対応マニュアル」には“プライバシー保護”についての記載もあります。</p> <p>今後は、法人全体でのマニュアル等を活用しつつも、子どもに着目した本園独自のマニュアル等を整備し、子どものプライバシー保護に配慮した、保育に取り組んでいくことが望まれます。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園は小規模な事業所内保育施設であり、職員枠が3人と、一般の方が利用できる地域枠が3人の施設です。本園の情報は、法人のホームページと上三川町のホームページに情報が記載されており、法人ホームページにはパンフレットや運営規定も掲示されています。一般の方の利用希望は町からの紹介が主ですが、年度途中は空きがなく入所が困難な場合も多くなっています。</p> <p>利用希望者には随時対応する体制となっており、園のパンフレット（入所ご案内）をもとに説明した後、園内の見学・説明が行われています。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>入園が決定した保護者には、「入所ご案内」や「運営規程」、「個人情報保護についてのお知らせ」、「個人情報の利用目的」などの説明書類が定められており、書類や持ち物等現物</p>		

<p>を用いて説明し、保護者の同意（記名・押印）を得ています。利用者アンケートの「保育園に入園した際に、保育の方針や内容について、説明がありましたか。」では、全員が「はい」と回答していますが、上記書類に「保育理念」や「保育方針」なども明記することで、よりの確に保護者に説明できるものと思われます。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>卒園・転園児について、転園先から要請があれば情報提供する考えはありますが、これまで要請はありません。一方、卒園児・保護者に対しては、いつでも相談に応じることとしており、実際に相談に応じたこともあります。その旨を定めた書類等はありません。</p> <p>保育の継続性への配慮についてどのように対応していくか、卒園児・保護者に対する支援をどのように考えるのかを明記し、保護者に伝えていくことが望まれます。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保護者に対して毎年1回「保護者アンケート」を行っています。“園の様子が伝わっているか”や“職員の印象”、“保育や行事”などについて、評価と意見を記載いただくもので、ほとんどが良好な回答となっています。</p> <p>懇談会や個別面談は行われていませんが、日々の朝夕の送迎時や連絡帳により、保護者と職員とは密接な付き合いができていますと感じられます。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>法人組織全体としては「第三者委員」が設定されているものの、本園の保護者に対しては「苦情処理責任者」を明記するのみであったこともあり、利用者アンケートの「第三者委員の認知度」は「いいえ」が60%と認知度は低い結果となっています。</p> <p>保護者との関係が良好であるからこそ、「苦情受付担当者」や「第三者委員」について正しく伝え、苦情等を言いやすい、言える環境・体制を確立することが望まれます。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>少人数保育である本園では、職員は子どもと保護者一人ひとりに対して丁寧な対応をしている様子が見受けられます。保育室は2階の一部屋のみであるため、通常は保育室で朝夕の送り迎えを行っていますが、時には話しやすいように1階の部屋で個別に対応することも心掛けています。利用者アンケートの「保護者が保育内容などの意見を言いやすいように、職員は日常的に保護者に言葉かけを行うなどの取組をしていますか。」では、全員が「はい」と回答しており、このような取組が評価されたものと判断されます。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に	a・b・c

	対応している。	
<p><コメント></p> <p>子育て・悩み相談の担当は施設長が、苦情処理責任者は法人営業部長が担うことを示す「職員体制表」を、入園時に保護者に説明するとともに、保育室内に常時掲示しています。保護者アンケートや連絡帳、日々の送迎時の会話などから意見や要望を把握し、職員間で話し合い対応することとしています。</p> <p>利用者アンケートの「保育所は、あなたの意見や要望などに、きちんと対応していますか。」では全員が「はい」と回答しています。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「危機管理マニュアル」を作成し、事故発生時の対応などについて規定しています。また、法人全体の組織である「安全衛生委員会」が毎月実施している勉強会に所長が参加し、安全管理等に対する知識を深める取組が行われています。さらに、日々の保育活動で気付いたことは「ヒヤリハット」の書式に基づき“場所”や“状況”、“予想される危険性”、“対応策”等を記載し共有を図り、職員全体で事故防止に向けた取組が行われています。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・b・c ○
<p><コメント></p> <p>感染症の予防や発生時の安全確保等について記載した、「感染症マニュアル（病気編）」及び「業務マニュアル」（衛生・中毒・食中毒の予防等）を作成し、職員に周知されており、職員アンケートでも全職員が「できている」と回答しています。</p> <p>感染症が流行する前には「ほけんだより（秋冬号）」を発行・配布し、保護者に注意を促すよう取組んでいます。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「危機管理マニュアル」には“地震”や“火災”、“台風”などの予防と対応について記載されています。「避難訓練年間計画」は、毎月さまざまなテーマを定めて役割・留意点が記載されており、この計画に基づき避難等訓練を実施し、終了後は反省・評価を職員全員で共有しています。さらに職員は、本園に隣接する施設の“訓練”にも参加しており、少人数である本園だけでは実施が難しい「消火訓練」などにも取組んでいます。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が	a・b・c

	提供されている。	
<p><コメント></p> <p>法人全体で共有する「業務マニュアル」に“マナー”や“言葉使い”、“身だしなみ”をはじめとする各種接遇についての規程等が定められています。</p> <p>これらをもとに、本園としての標準的な実施方法について整理・規定し、それに基づいたサービス提供がなされていくことが望まれます。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園としての標準的な実施方法を定めた後、提供するサービスとマニュアルとを常に確認し、職員全体の意向を踏まえて見直す仕組みを、継続して実施していくことが望まれます。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>入園前の保護者との面談は所長が担当となり、子どもの家庭での様子や生活リズム、食事の状態など子どもの状況について詳しく聞き取り、また、家庭や健康状態などについては児童票等に記録します。これらの情報をもとに、保育課程を踏まえて子ども一人ひとりについての指導計画を作成し、職員間で共有しています。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>月末に「キッズ職員会議」を開催し、“当該月の子どもの様子”や“保護者との連携”などについて話し合いを行っています。毎月の年齢別指導計画及び個別指導計画は、所長がここでの意見を踏まえ「反省・評価」を記載し、翌月の指導計画を作成しています。年間指導計画も同様に年度末の3月に所長が作成し、職員に伝達されます。</p>		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの保育に関する日々の記録は「保育日誌」に記載するとともに、所長が確認し押印しています。本園の職員は出勤日は一日中勤務する体制をとっていることから、朝遅番といった引継ぎは無く、休み明けに「保育日誌」を確認し、職員間の情報の共有を図っています。また、保育の記録は「児童票」にも記録されており、特に0歳児は丁寧な記録がなされていることを確認しました。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>児童票は鍵のかかる書庫に保管し、使用する際は保育室に限定するなど取り扱いに留意する姿勢が見受けられます。個人情報保護については、入園時に「個人情報の利用目的」などの説明が行われ、保護者の承諾のもと「キッズだより」への写真掲載などが行われて</p>		

います。

職員アンケートの「記録の管理の方法について、個人情報保護や情報公開の観点から、職員研修が行われていますか。」は「できている」の回答は25%と低い結果となっています。子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供などに関する規定を定め、職員研修等を実施し、より適正な保護・利用が行われることが望まれます。

A-1 保育内容

A-1- (1) 保育課程の編成		
A①	A-1- (1) -① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「保育課程」は“保育理念”、“保育方針”、“保育目標”のもと“年齢別保育のねらい”が記されており、本園が開設された平成27年9月に編成された内容となっています。</p> <p>「保育課程」は、在園期間中に保育目標等を達成することができるよう全体的かつ一貫性ある計画であり、これまでの取組みを踏まえ、所長及び全職員が参画して適宜見直し、編成されることが望まれます。</p>		
A-1- (2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A②	A-1- (2) -① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>室内環境については、夏冬の標準的な室温や湿度を定めて空調設備を用いて管理・記録し、定期的に換気を行うために目安の時刻が設定されており、実際に換気が行われていることを確認しました。少人数保育で保育室は一部屋のみであることから、工作や食事の際には床にマットを敷いたり、コーナー遊びができるよう空間を区切ったりと工夫する様子がうかがえます。また、子どもが帰った後には職員の手で清掃が行われ、手洗いやトイレも清潔感あふれる環境が形成されています。</p>		
A③	A-1- (2) -② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>すべての子どもの指導計画を作成し、それに基づき保育が行われています。訪問調査日は「小麦ねんど遊び」が行われていました。0~2歳のすべての子どもと一緒に遊び始めましたが、職員は最も小さい0歳児の様子をみて途中で他の遊びに連れ出し、その後は音の出るおもちゃなどに熱中して遊んでいる様子を見ることができました。</p> <p>0~2歳の異年齢の子どもと一緒に活動する中で、子ども一人ひとりの状態を見定め、その子どもの状態に応じた保育が行われていると感じた一場面でした。</p>		
A④	A-1- (2) -③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>食事や排泄、着替えなどの基本的な生活習慣を身につけるために、家庭と園とが一体と</p>		

<p>なって取組んでいる様子が、連絡帳や送迎時の保護者との会話からうかがうことができます。</p> <p>また、園内では、「小麦ねんど遊び」で「スモック」と呼ばれる作業着を着脱する際に、自分でできる子は自分で着るよう声かけがあり、それを見守る職員の姿がありました。ペットボトルとネットを組み合わせた保育士手作りの「物入れ」を用いて、子ども達が楽しくブロック等をネット内に片付けるなど、工夫ある取組みが行われています。</p>		
A⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>訪問調査当日は、近接する法人本部の建物の中庭まで散歩に出かけました。現在は本園には園庭がないものの、近接する法人施設や近隣の公園などを利用して自然・外遊びに積極的に出かけています。中庭では、小さな草花を摘み「ママにあげる」という子がいたり、遊具で遊ぶ子ども、乗り物遊びをする子どもとさまざまに活動していました。職員は危険がないように互いに声をかけ合いながら子どもを見守りつつ、子どもの自主性に配慮する様子がうかがえました。</p>		
A⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園では0歳児も他の1・2歳児と同じ保育室で保育が行われていますが、一人ひとりの指導計画を作成した上で職員との深いかわりのもと、より注意して見守り、状況に応じて適切な支援が行われています。また、0歳児の月齢・成長によって専用のベッドやテーブル・椅子を確保するなど、0歳児にふさわしい環境の保持に取り組んでいます。</p>		
A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>子ども一人ひとりについて「指導計画」を策定し保育にあたっています。少人数保育として、職員が一般的な園より多くの手をかけることが可能ですが、子どもの好奇心や意欲を理解し、促すような支援が行われています。「小麦ねんど遊び」や法人施設の「中庭遊び」においても子どもの主体的な行動を支援する様子が見受けられました。</p> <p>保護者と毎日連絡帳を交換していることも本園の特徴であり、家庭での様子がわかり、トイレトレーニングやお箸の使い方なども保護者と一体となって取り組んでいます。</p>		
A⑧	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>非該当</p>		
A⑨	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整	a・b・c

	備し、保育の内容や方法に配慮している。	
<p><コメント></p> <p>障害に関する研修に職員が参加し、研修内容を記録し、会議等で報告されています。また、その結果を障害の有無に係わらず子どもの生育に大切なこととして、日々の保育に取り入れる様子がうかがえます。</p> <p>法人内の新たな取組みとして、発達に不安のある児童のための通所施設を開設しています。子どもに不安がみられる場合には、行政とともに法人内の専門家のアドバイスを受けることが可能であり、発達障害等に関する情報を保護者に適切に伝えていくことにも期待が持たれます。</p>		
A⑩	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>本園は朝7時30分から18時30分までを保育時間とする園であり、延長保育は行っていません。</p> <p>保育室の床はカーペット敷きとなっており、冬場でも床面に座ったり横になったりすることができ、ゆったりと過ごせます。また、運動・散策などは午前中に行い、午後、午睡の後は室内で比較的落ち着いて過ごすプログラムとなっています。長時間にわたる保育の中でも、同じ保育士が付き添い、ゆったりと落ち着いて過ごせるよう配慮されています。</p>		
A⑪	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>非該当</p>		
A-1-(3) 健康管理		
A⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの健康状態については、連絡帳や送迎時の言葉かけにより保護者（家庭での様子）と職員（園での様子）で情報を交換し、互いに確認し合っています。園では登園後すぐに体温を計測し連絡帳に記録するほか、子どもの様子をみて適宜体温測定等を行っています。隣接する高齢者施設には看護師が常駐しており、子どもの様子について相談できる体制がとられています。利用者アンケートの「保育中の発熱やけがの処置、保護者への連絡等体調変化への対応は十分ですか。」について、全員が「はい」との回答結果となっています。</p>		
A⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>健康診断は年2回、歯科検診及び尿検査は年1回行っており、結果は児童票に記録し、職員間で情報を共有し、保育に活かしています。身長・体重については園内で毎月測定・記録しています。健康診断等の実施及び結果について、紙面及び口頭により保護者に伝え、診断結果によっては治療等を勧めています。</p>		

A⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園では「給食食物アレルギー児対応マニュアル」を作成しており、“食物アレルギー”について医師の診断のもと、除去食・代替食について保護者の確認を得て、給食やおやつを提供することとしています。</p> <p>“食物アレルギー”以外のアレルギー疾患や慢性疾患についても園としての対応を定めたマニュアル等を作成し、職員の正しい理解のもと適切な対応を行うことが求められます。</p>		
A-1-(4) 食事		
A⑮	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>園で提供する給食では、子どもが食事を楽しむことができるように、ハロウィンカレー(10月)やクリスマスランチ・ケーキ(12月)などの行事食も取り入れています。また、法人他部署の協力を得て「さつまいも」の苗植え、収穫体験を行っています。</p> <p>保護者に対しては、「給食だより・献立表」を毎月配付しており、給食レシピや季節の食材紹介なども記載されており、家庭における「食」の取組を支援しています。利用者アンケートの「食に関する相談や、給食やおよつのレシピ紹介など家庭での食育の実践につながる取組をしていますか。」は、全員が「はい」と回答しています。</p>		
A⑯	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>本園の給食は、近接する法人本部建物内で調理が行われ、保育士が運搬・配膳し、必要に応じて食材を刻み、子どもに提供しています。毎日の給食の提供にあたって、毎日職員が交代で検食を行い「検食簿」に記載しています。同じ法人の施設である「トータスキッズ下野」の職員と管理栄養士、法人本部職員も参加する「給食会議」が毎月1回開催されています。</p> <p>検食は子どもに提供する直前に行われているため、不都合が生じた際の変更は時間的に困難であり、記録としての意味合いが強いように感じます。衛生管理面も含めた食事の提供に関する本園独自のマニュアル等を検討することも必要と思われるます。</p>		

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A⑰	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>本園は0歳から2歳までのすべての子どもが同じ「連絡帳」を使用しており、保護者からは家庭の様子が、園からは園内の活動や食事、排泄、睡眠の状況が記載されています。さらに送迎時の会話や園のブログなど、保護者と園とは密接な関係が保たれていると感じます。</p> <p>利用者アンケートの「送迎時の保育士との話や連絡帳などを通じ、園や家庭での子どもの</p>		

様子について情報交換がされていますか。」で、全員が「はい」との回答結果となっていることから密接な関係がうかがえます。		
A-2-(2) 保護者等の支援		
A⑱	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>利用者アンケートの「子どもの状態や育ちについて、保護者の相談に応じてくれますか。」は、全員が「はい」との回答となっており、連絡帳や送迎時の保護者との話などにより、親密な関係が築かれ、支援が行われているものと思われます。</p> <p>今後は、保護者との日常的な会話等から得た「意見」や「要望」、「相談事」などを「返答・対応策」等とともに記録し、職員間で共有・伝達していくことも必要と思われます。</p>		
A⑲	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園では「虐待対応マニュアル」を作成しており、“虐待における保育園の役割”や“虐待発見のポイント”、“虐待予防チェックシート”、“関連機関連絡先一覧”などが記載されています。「虐待」について、法人全体としての研修も行われており、虐待の早期発見・予防等に向けて職員の意識の涵養に努める様子がうかがえます。</p>		

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A⑳	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>法人として「保育士のための自己評価表」が作成されています。これを用いて、職員は毎年1回、「イ」、「ロ」、「ハ」の3段階により自らの保育の評価・チェックを行っています。この自己評価表はファイルに保管され、所長との面談において今後の指導等に活かされることとされています。自己評価を通して、何に気づきどう改善につなげるかなど、職員各個人の取組みの実践が期待されます。</p>		